

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600776		
法人名	特定非営利活動法人 養老会		
事業所名	グループホーム「養老の泉」		
所在地	豊後大野市大野町大原1186番地1		
自己評価作成日	平成26年1月6日	評価結果市町村受理日	平成26年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhvu\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=true&JiyosvoCd=4472600776-008&PrefCd=44&VersionCd=](http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhvu_detail_2013_022_kani=true&JiyosvoCd=4472600776-008&PrefCd=44&VersionCd=)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構		
所在地	大分市羽屋21番1の212 チュリス古国府庁舎番館 1F		
訪問調査日	平成26年2月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

優しい言葉と笑顔でさりげなく寄り添い一人一人の思いに耳を傾け、御家族、地域の皆さんと共に支え皆が楽しく幸せに暮らせるような事業作りを目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いの把握において、幼少期の繋がりが「兄弟・姉妹、家族からの話題」の提供を支援の糧としています。その一環として、馴染みの関係の継続、また、居心地よい日常の暮らし「趣味や興味の広がり」への取り組みのケア(実践)に反映しています。職員間のより深い気付きを旨とする支援に努めており、「人対人」の人の絆を大切に、利用者・家族・職員との協同的な関係づくりを支持しています。新体制となり、運営において、全職員間での更なる意識力の向上と、理念に基づく支援の共有「周知徹底」における、チーム力のアップを目指す前進的な姿勢が語られました。一人ひとりの利用者の「尊厳と本人本位」の支援、健全保持と計画目標達成の実践に励む体制に期待します。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「貢献」があり、地域密着型サービスを目指している。ホールに理念を掲げ、職員は常に理念を意識して日々のケアを実践している。今年度は、理念の唱和が出来ていない。	地域密着型サービスの施設として「施設の役割り、地域での営みの意義」の職員間の周知、実践の継続に努めています。「利用者・家族・職員の笑顔」を旨とする職員の姿勢を大儀と捉え、支援に繋ぐ体制づくりに取り組んでいます。	管理者を中心に、個々の職員の資質の向上とチームワークづくりに取り組む姿勢が伺えます。個々の職員の具体的な取り組み目標を、実践に繋げるなど、更なる質の向上に期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して活動に参加している。月に一度、喫茶の日を設け近所の方を招待し交流している。事業所行事への参加を声かけしている。広く周知するため、新聞広告を入れた。	地域行事の把握と協力、「喫茶の日」ご近所付き合いの関係づくりに継続的に取り組んでいます。琴の先生、元幼稚園教諭による手遊びや読み聞かせ、体操などの地域のボランティアや、保育園児との積極的な交流が図られています。	地域への発信活動として「新聞広告」の配付による施設の認知向上に取り組んでいます。認知症状や介護の相談などの前進的な受入れに着目する管理者の姿勢が伺えます。具体化に期待が持たれます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のテーマとして認知症の話をしているが地域への発信(例えば教室開催や勉強会開催)は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。ホームの近況報告をして毎回テーマに沿って進めている。その中で出た意見やアドバイスを拝聴し利用者へのサービス向上に生かしている。	施設の現状等の報告・利用者の状況や支援の取り組みの在り方及び、出席者からの伝達事項の発信が行われています。ヒヤリハットや事故対応等の報告、意見・質問等の協議により、相互の理解・協同関係づくりを深めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設責任者が窓口となり、市やその他の関係機関との連絡を密にし協力を仰ぎ、良好な関係である。市の担当者には運営推進会議のメンバーとして参加して頂き事業所の実情を把握してもらっている。	訪問・電話により、事業所・利用者に関連の相談(行政など)を発信しており、関係づくり(質問やアドバイスの受信)に取り組んでいます。運営推進会議の活用を交流の中心に、市関係者等との相互の関係作りにも努める様子が伺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の勉強会で知識を深め職員間で共有し実践している。自由に外出する利用者もいるが鍵はかけず、見守りや、その他のかかわりに対応している。安全確保の為、コールマットを使用している利用者もいる。	法人として「身体拘束等の排除の理念及び方針」が掲げられています。身体的・精神的な拘束の研修により、介護のプロとしての気付き等を職員間で再確認しながら、個々の利用者の身心の健康に配慮したケアの実践に取り組んでいます。	責任者交代による新体制づくりの一環として、個々の職員の資質とチームワークの更なる向上への意向・姿勢が伺えます。意識と周知、チームケアの向上への積極的な体制づくりに期待が持たれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催して学んでいる。現在、虐待の無い介護を実践している。職員の体調不良がある時など、利用者に対し厳しい言葉づかいとなる時もある。離れて距離を保持したり、他の職員と交代したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で勉強会を実施し、理解している。現在は、活用している利用者が居ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者の話を良く伺ったうえ、事業所の重要事項を十分説明し、理解・納得して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、意見が入ったことはない。家族会あるいは面会時にお聞きしたことは運営に反映させるようにし、運営推進会議でも報告している。	家族会(1回)の開催や行事(花見など4回)へのお誘い、普段の面会時の交流を大切に生活の様子や伝達や、意見や要望・家族の思いの把握に努めており、相互の関係づくりの大切さに着目し、情報の共有・支援の活用に取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で職員の意見を聞いているが、日々の中で職員の意見や提案を聞くようにしている。	介護に関する意識の確認(自己評価)に取り組んでいます。研修では、日常生活の支援の中での職員の気付き(ハード・ソフト面)の姿勢の重要性なども発信されており、意見(思い)の伝達や職員相互の協議による支援の向上に取り組んでいます。	「施設力の向上」への体制づくり構想「個々の職員の積極性の育成」に着目しており、内部研修の意義の周知や職員主導の学びの姿勢の重要性について試案が図られており、大いなる期待が持たれます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に現場に出向き職員とのコミュニケーションをとり、現状の把握をしている。労働条件については、残業手当や休憩時間等の整備がより整ってきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会のプログラムを毎年作成し、必要な研修を行っている。また、資格を取得するための研修や、スキルアップ研修への声かけも積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の「認知症ケア研究会」や「小規模ほ一むの井戸端会議」等に参加し、同業者との交流をしながら勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは御家族から話を伺うが、実際、入所する前に自宅訪問させていただき、本人とお会いして、本人の思いに触れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、御家族からこれまでの経緯などの話を伺い、安心していただけるように対応している。また、可能であれば毎日でも訪問して頂いて良いことや、日常の状況について、連絡したりしていくことをお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が入所前に見学に来たりしている。本人、家族が必要としている支援を見極め対応している。御家族や友人などインフォーマル資源を利用していくような対応にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの能力に応じた作業を一緒にすることで共に支え合っている。年長者として尊敬し、昔話をお聞きしたり、暮らしの知恵をお借りしたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、通院への同行、毎日の面会、朝夕の電話等で御協力を頂き、共に支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一時帰宅、ご近所の方へ電話する、馴染みの美容院や理容店に行く等、関係が途切れないように支援している。入所すると、関係性が薄れてきやすいが、出来るだけ支援に努めている。	利用者を取り巻く人間関係の把握に努めています。馴染みの美容院や帰省による家族との外出、親戚の訪問や居住地のご近所さんからの電話受信など、利用者や家族の思いを受け止めながら繋がり継続支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性のいい人同士、本人の状況を考慮して座席を決めている。仲の良い人同士は、お互いの居室に訪問して話をしている。皆が共に生活する仲間として思ってもらえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了原因は、死亡がほとんどである。亡くなってからも、初盆等にご自宅に訪問させていただき、在りし日の故人の話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や表情からその思いを把握するようにしている。一人ひとりの話を良く聞くようにしている。又、聞いた話は職員間で共有するようにしている。常に理念である、利用者本位を心がけている。	個々の利用者の表情・態度や語りからの気付き、家族の思いの把握「何を思い・何をしたいのか」の気持ちの受け止めを大切に、支援へと繋ぐ様子が伺えます。全職員間の情報の共有による統一性のあるケアの実践に取り組んでいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にこれまでの生活歴を御家族にお聞きしたり、フェイスシートに詳しく記入して頂き把握に努めている。入所後も随時、お聞きしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活のペースを把握している。それぞれの出来ること出来ないことを見極めていく。心身の状況の変化にもすぐに気付くようにして、現状に合った支援を心がけている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が原案を作成し、その後全職員で意見を出し合い、本プランを作成している。基本、3か月に1度のモニタリングを行い、必要時は見直しを行っている。	担当職員を中心に全職員間によるモニタリング、アセスメントでの課題の発見と問い直しを基に原案の策定が行われています。さらに、プランの見直し・変更が図られる中で、利用者や家族の思いに寄り添える計画づくりに取り組んでいます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事・水分・排泄等日々の暮らしの様子や本人の言葉を記録している。それに基づき、情報を共有しチームワークで実践に生かしている。介護計画の見直しも職員皆で話し合い決定している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅への送迎、電話をかける、買い物支援等本人のニーズに合わせ、柔軟に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	限られているが、地域の方とのふれあいを資源とすることができている。月一回の喫茶の日、月に回のボランティアさんの訪問がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医を決めている。一人は家族と受診。他は、2週間に1度の往診で対応している。急変時、夜間党にも適切な医療を受けられている。	利用者・家族の希望の医療機関への受診をしており、夜間急変時にもかかりつけ医が対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調や表情の変化を見逃がさないようにしている。もし変化に気がついた時はすぐに看護師に報告し支持を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の支援方法に関する情報を病院に提出している。入院中は病院、家族と連絡を取り合い、本人の状態を把握し、出来るだけ早期に退院できるように努めている。入院中は出来るだけ見舞いに行くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、かかりつけ医、ホームで状況が変わるたびに話し合う場を設けている。本人、家族に希望があればホームで出来ることをしながら、安心して最期を迎えられるような支援を全員でしている。	利用者の身体状況に応じ、看取りになるかを医療機関、家族と話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会で、消防署の方に来ていただいて心肺蘇生術や緊急時の対応等の研修を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や消火器の取り扱い等定期的に訓練している。消防署はもちろんだが、地域の方々の協力も得られている。夜間想定訓練も実施した。災害時の避難場所、避難路も把握している。	火災避難訓練においては、年2回消防署に来てもらい深夜帯・屋に行っています。地域の協力もあり食料品(米含む)1年分用意されています。	実際の場合を想定し、利用者が興奮した状態の時の対応の仕方について職員間で対応検討を希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを確保するため、さりげない言葉かけをしたり自尊心を傷つけないよう、本人の気持ち、言葉を受容しているが、つい、なれ合いの中で強い口調になったり、傷付けかねない対応をしていることもある。	研修を通じてプライバシー、尊厳について周知徹底に努力しています。	利用者に対する言葉かけや介護を通じてマンネリ化する部分もある様子です。定期的なミーティングで常に確認しあう姿勢を持つ事を希望します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせ声をかけ、ゆっくり話を聞くようにしている。その中で出た本人の思いや希望は職員全体が把握するようにしている。職員側が決めたことを押し付けず、自己決定ができる場面を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり、その日のペースに合わせて希望を聞きながら対応しているが、希望通りにいかないこともある。入浴日や入浴時間などは職員側の都合が優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝顔を拭き、髪を整えている。希望があれば地域で散髪等をしている。食事後、排泄後など、汚れた場合すぐに着替えをしている。その際、本人のプライドを大切にさりげなくカバーするよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせ、食事の準備では食材切りを、片づけではお盆拭きを一緒に行っている。職員と利用者が同じテーブルで食事をし、楽しい雰囲気ができるよう心がけている。	地産地消の新鮮な物を利用し、季節感のある料理を利用者と共に作り、おやつ作りも一緒に行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録し、状況把握に努めている。水分でむせるかたにはとろみをつけたり寒天で固めたお茶を提供し、咀嚼や嚥下困難な利用者にはミキサー食を提供して水分や栄養の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分でできる方は声かけ・見守りをしている。できない方には本人に合わせた口腔ケア支援を行っている。支援を嫌がる方には時間をおいたり職員が交替したりし、納得して受けてもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子の利用者や意思確認のできない利用者には、声かけをした上でトイレに誘導し、できるだけトイレでの排泄ができるように支援している。一人ひとりの排泄の間隔を把握し、失禁を防ぐようにしている。	排泄パターンを把握し声掛け誘導をしています。利用者の身体状況を全員で把握しスムーズにケアを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶に寒天を混ぜたり、野菜中心の食事をしている。また、ラジオ体操などを採り入れている。しかし、意思疎通や動作が困難な利用者もあり、便秘の予防には至っていない。その際には下剤等の薬に頼っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は職員の都合になっているのが現状。その中で、希望や拒否があれば日を替えて対応している。入浴時は、利用者の希望に合わせて、体に無理のない範囲でゆっくりしていただいている。	週3回、個浴の支援にて入浴されており、入浴拒否の方にも上手に対応しています。入浴後は満足感を持たれている様子です。職員の配慮が行き届いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は起きて活動してもらい、リズムを整えるよう努めているが、希望によって昼寝をしたり、居室で休息したりと、利用者のペースで生活していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋を綴じ、常に確認できるようにしている。薬の内容に変更があれば申し送りに記入し、職員間で情報共有をしている。服用の際は手渡しで確実に飲んでもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。外出できる方はドライブに誘ったりしている。利用者同士の居室訪問なども行い、気分転換をしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じてドライブ等をし、希望があれば散歩や買い物に行ったりしているが、外出できる利用者が固定化してしまい、重度の利用者は庭での行事以外では屋外にほとんど出ることがなかった。	通院の帰りに買い物に行ったり近くの公園に行ったりしていますが、自力で歩行出来る方がいなくなり重度化しており屋外に出る機会が減っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人所持の利用者は現在一人だけであるが、管理が難しいため、少額の所持にしている。買い物では職員が付き添い、支払い自体は本人がしている。他の利用者はお金を所持することができていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとの依頼があるときは、できるだけ希望に沿うようにしているが、頻繁なときは待ってもらうようにしている。手紙は、年賀状を出すための支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度計を各部屋、ホールに備え管理している。玄関の戸やホールに季節の飾りをしている。食堂では、利用者の位置関係に十分注意しているが、時々不満が出る。全体として家庭的な雰囲気を目指し、心地よい空間づくりに努めている。	職員が一丸となって季節感が感じられる工夫が随所に見られました。プランターに花を植えたり、ひなまつりの飾り付けや居間の模様替え等、変化ある暮らしへの環境作りに取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席配置に工夫をし、仲のよい利用者同士でくつろげる空間を作っている。2箇所のホールを利用し、気のあった方同士でテレビを見たり話をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの居室に家族の写真や大切なものを飾っている。ベッドやタンスの配置は、家族や本人と相談して希望にあわせて変更している。	集団支援として午前、午後20分ずつ職員が利用者と体操を行い、大正琴、卓上オルガン演奏等趣味を活かした援助が行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの分かる力を活かすため、トイレ入り口や居室入り口に目印の張り紙や名札を使用している。		